

7. 施設から在宅に復帰し、在宅での起業を検討中

交通事故での脳外傷後、体も動かさず言葉も不自由となり、養護施設の片隅で物のように扱われていた女性。カスタマイズ就業の専門家が訪れると、彼女が何かを言っているような感じがした。そこで、音声拡大機をつけたところ、コミュニケーションが可能なことがわかった。その後、介護者と一緒に自宅に戻り、子供も一緒に住めるようになった。自宅で絵本のストーリーを書いたり、介護者と一緒に車いす用の洋服づくりのビジネスを始めようとしている。



8. 法律補助職に就くための準備期間での、経過的な受付の仕事

退役軍人の人が事故で脊髄損傷になり、施設生活になっていた。彼は法律関係の仕事に就く希望を述べた。リハビリテーション局の資金を使って交通の問題を解決し、仕事を見つけようとしたが、資格があった方がよいということで、現在労働局投資委員会の資金で法律補助職の認定を受ける学校に通っている。当面は、退役軍人省の制度で新規職場開発の給料補助を使ってワンストップセンター内の受付の仕事に就くことにし、リハビリテーション局の資金で彼の所有としてコードレスキーボードや電話機、音声入力ソフトを購入し、次の職場にも持っていけるようにして仕事に就いている。



9. 防音設備会社におけるカタログ発送業務の創出

在宅での生活に飽き飽きして、人との関わりと就業を希望した女性。防音設備会社のカタログや見本発送は、これまで社員が他の業務のかたわらで行っていた業務であったが、求職者の能力にあわせて、問合せからの発送先データ入力、宛名ラベル貼り、カタログや見本の封筒詰め、発送等を集めて一人で担当する新たな仕事を創出した。ラベル貼り作業には特製の補助具を作成して使用している。細かな要望については



ジョブコーチが支援している。この作業スペースは、職員の休憩室の隣に設置され、職員との交流が行えるようになっている。

勤務時間は、10時から4時までで、障害者用の交通サービスを活用して通勤している。

10. 大手スーパーでの商品展示管理

在宅での生活であったが、カスタマイズ就業サービスで、まず、ボランティアでの教会の会計業務の担当としてキャリアを開始した。それによって、活動範囲が広がり、人脈も広がり、自立心が芽生え、自宅の近くに大手スーパーが開業した際に、独力で教会での職歴をアピールした履歴書を作成し、採用試験を受けた。その大手スーパーは、職務内容未定で採用を決定した。その後、ジョブコーチがスーパー内の仕事内容を踏まえ、本人に適した仕事を創出し、必要な支援を行った。

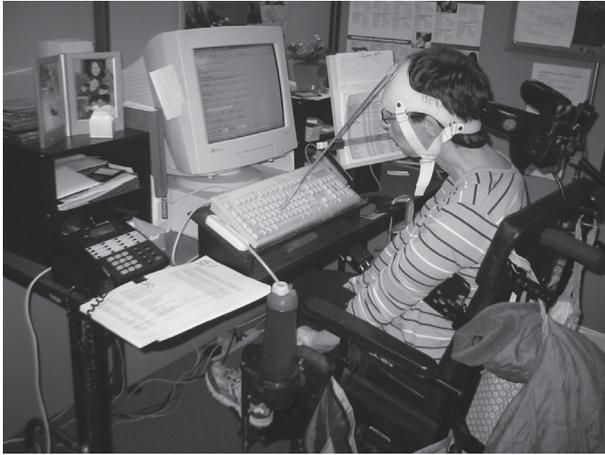


展示内容のチェックや、客からの値段の問合せへのプライスチェッカーを用いた回答などを担当している。

11. 大学内でのデータ入力(2例)

大学で、コンピューター業務を行っている2名の重度脳性まひをもつ人。両手が自由に動かせないため、ヘッドスティックでの入力作業であった。

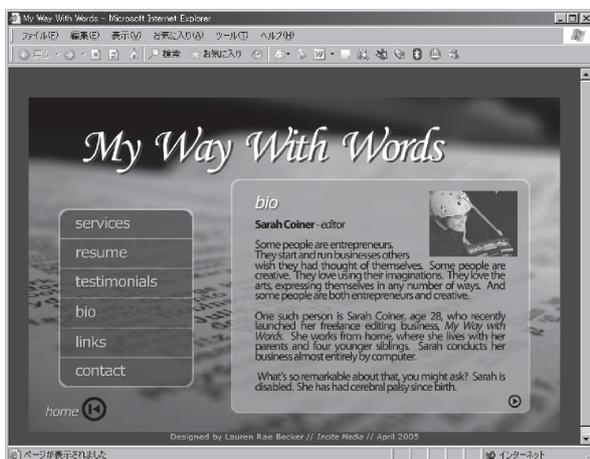
データ入力速度には限界があるが、仕事の量との兼ね合いで問題なく実行できる仕事を担当している。



12. 文書校正の在宅ビジネス

当初は、在宅でのデータ入力作業を担当していたが、本人は非常に読書家であり、仕事内容に満足できなかった。大学の研究費申請書類は件数も多く、また、様式を踏まえて、文章も明確に書く必要があり、研究者にとっては大きな負担であった。そこで、カスタマイズ就業チームの支援で、研究費申請の文書校正のビジネスを在宅で開始した。

特殊な入力機器を用い、決まり文句については簡便に入力できるようにしたりしている。他の校正者と比較して、誤字率等も低く、評価されている。



13. アーティストとしての起業

非常に重度の脳性まひがあるが、家族の支援で、絵を描くことが趣味であった。カスタマイズ就業の支援チームは、地元の画商と交渉して、彼の絵を販売したり、カードにして販売したりするビジネスを始めた。ビジネスにはデザイナーも参加し、商品として売れるパッケージ作りや、ウェブページも作成した。これらの資金はカスタマイズ就業の助成金を活用している。

ジョージア大学での立ち上げの日のオークションで、絵は数万円で落札され、絵葉書セットも2千円ほどで売れていた。絵葉書を置いてもらえる売り場を検討中だ。

